

令和6年度 大阪緑涼高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

【1】建学の理念に基づく教育

- (1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」と4つの柱を念頭に自校教育・心の教育を行う。
- (2) スクール・ミッションに沿った教育活動を具体化・体系化し、生徒や保護者及び、地域への浸透を図り、安定した入学生徒数を確保できる学校を目指す。

【2】学科・コース・系統の取組み

- (1) 各コースがスクール・ポリシーを基に、コース委員会を中心に教育課程表に基づく教育活動を具体化し推進する。
- (2) 各コース・系統の教育活動を総括し、問題点を明確にして改善に向け、新たな取組みを行っていく。

2. 中期目標

学習指導領域

【1】生徒の学習状況

- (1) 教科会を活性化し、定期考査後のデータ分析による学習状況の把握を行い、以後の授業に反映する。
- (2) 授業内に確認テスト等を行い、生徒の学習状況を把握する。
- (3) 入学後のリメディアル教育、学力不振生徒の考査前の学力補充体制を検証し、継続して実施する。

【2】教科・コースの教育活動

- (1) 授業内容を精選し、授業規律を徹底する。
- (2) 日常の授業を大切に作る姿勢を教員・生徒が共に養い、チャイムと同時に授業を開始する習慣の定着や、出張等で生じる自習授業を時間割変更で削減する。
- (3) 各種検定の合格という成功体験が自己肯定感につながるということを教員が強く認識し、コースや学年の教員が積極的に支援を行い、合格率向上を目指す。
- (4) ICT機器を授業の効率化や生徒のモチベーションを高めるツールとして利用することに留まらず、リモート授業やグループワークにも活用し、個別最適な学びと協働的な学びの教育活動に繋げる。
- (5) タブレットの利用を含め、導入済みのClassiやスタディサプリの利用を、教科、教員の偏りが出ないように、積極的に組織的な活用になるよう進める。
- (6) 総合的な探究の時間のカリキュラムの充実に向けた検討と実践を行う。

生活指導領域

【1】基本的生活習慣の確立、規範意識の育成

- (1) 教職員全員が協力して生活指導を行う意識を徹底する。
- (2) 校則遵守を徹底し、頭髪指導・身だしなみ指導の強化を行う。
- (3) 「挨拶」の大切さを説き、様々な場面で挨拶の励行を勧める。
- (4) 目標値を設定し、遅刻指導を行い、登下校指導を計画的に実施する。
- (5) スマートフォン・タブレットの安全な利用などの使用ルール作りを行う。
- (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用防止など危機管理にかかわる事象の講演会等を行う。
- (7) いじめの対応に向けて、学期ごとに全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見と解決に繋げる。

【2】帰属意識の高揚

- (1) 生徒会を中心に、弁論・コーラス大会、緑涼祭などの行事を、生徒の企画・運営で実施する。
- (2) 課外活動が活発に行えるよう、生徒会を中心にクラブ入部率を高める活動を行う。

【3】不登校生対策

- (1) 不登校生等委員会を中心に不登校生や発達障害について生徒理解を深めていく。
- (2) 1学期中間考査期間中に、身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。

進路指導領域

【1】進路意識の高揚と進路実績の向上

- (1) 1年次よりキャリアデザインマップを活用し、総合的な探究の時間やホームルーム活動を利用してキャリア教育や進路学習を確実に行う。
- (2) 調理製菓科・普通科保育系進学コースなど、インターンシップや保育体験などを積極的に取り入れる。
- (3) 国公立大学の専門学科推薦制度について周知し、一般選抜での受験にも積極的にチャレンジできるよう、進路相談や受験対策を行う。
- (4) 就職を専門とする講座等を開設し、生徒に受講させ、意識を高めるとともに、求人先の開拓を進め、多様な業種・事業所から選択できるよう努める。
- (5) 大学入学共通テストについて分析を行い、教科、校務分掌、コース会議で対応を進める。特に、「情報Ⅰ」について、情報収集に努め、早急に対応体制を整える。

【2】系列大学及び協定校との連携強化

- (1) 大阪商業大学、神戸芸術工科大学の特色や魅力を高大連携の小論文講座やキャンパスツアー等で早期に伝え、系列大学を進路選択の柱として位置付ける。
- (2) 協定校による特別授業の実施等を通して、各大学の特色を知ることによって、進学実績の増加へと繋げていく。

入試・渉外領域

【1】広報活動の強化

- (1) 全教職員で募集活動を行うという意識を持つ。
- (2) 募集行事に在校生が積極的にかかわり、地域から信頼される学校を目指す。
- (3) オープンスクール・入試説明会の充実を図り、短時間でも本校の魅力が伝わるような工夫を行う。
- (4) 大阪商業大学・神戸芸術工科大学の系列校であることの認知度を高める努力をする。
- (5) 受け入れ授業・出前授業の機会など中学校との接点を多く作り、信頼関係構築に努める。
- (6) 近隣だけでなく広範囲の中学校に、スポーツ特待生制度・クラブ奨学生制度を周知し、志願者増加につながる募集活動を実施する。

【2】専願受験者の確保

- (1) 各コースの特徴的な教育活動をアピールすることで専願志望者200名を目指す。
- (2) スポーツ特待生制度、クラブ奨学生制度を活用して、スカウティングに注力する。
- (3) 普通科保育系進学コース及び調理製菓科の充実した施設・授業内容を説明し、専願志望者増を目指す。

その他の領域

【1】保護者との連携

- (1) 1学期末に三者懇談を行い、生徒の学習状況の報告と本校の教育活動への理解と協力を求める。
- (2) 教育懇談会や授業参観を開催し、本校の教育を可視化する機会を増やし連携を深める。
- (3) さくら連絡網やホームページを利用し、感染症対策や気象警報等に伴う休校などの情報を配信するだけでなく、生徒の活動情報を随時配信し「開かれた学校」を目指す。

【2】地域との連携

- (1) 藤井寺市との連携協定に基づき、地域の保育所・幼稚園、小・中学校との教育・文化交流を深め、地域に信頼される高校を目指す。
- (2) 保育系進学コースと藤井寺市立第一・第三保育所、藤井寺市立図書館との連携を継続する。

[自己評価アンケートの結果と分析(令和7年1月・3月実施分)]					学校評価委員会からの意見																												
<p>○あなたは本校に入学してよかった・子どもを本校に入学させてよかった</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計1</th> <th colspan="2">2024年度</th> <th colspan="2">2023年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>67.9%</td> <td>73.7%</td> <td>62.6%</td> <td>70.3%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>22.1%</td> <td>22.2%</td> <td>24.8%</td> <td>20.4%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>10.0%</td> <td>4.1%</td> <td>12.6%</td> <td>9.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の肯定的意見が増加したが、70%を切るところにとどまっており、改善が必要。また、保護者は、否定的意見が減少し、肯定的意見に転じている。主に情報発信やホームルームの在り方、学習指導領域を中心に評価が上昇しており、これが満足度の上昇の要因と考えられる。 【自己評価△】</p>					アンケート集計1	2024年度		2023年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	67.9%	73.7%	62.6%	70.3%	中間的意見	22.1%	22.2%	24.8%	20.4%	否定的意見	10.0%	4.1%	12.6%	9.3%	<p>保護者の高い信頼は日常的に丁寧で親身な教育を積み重ねてきた成果であり、本校一定の評価として定まってきている。一方で生徒の評価も改善されており、自分の成長を実感できている生徒が増えていると言える。学習指導・進路指導・生活指導のあり様の検証と改善を行い、より多くの生徒が満足いく高校生活を送ることができるような学校であるよう、努力していかねばならない。</p>				
アンケート集計1	2024年度		2023年度																														
	生徒	保護者	生徒	保護者																													
肯定的意見	67.9%	73.7%	62.6%	70.3%																													
中間的意見	22.1%	22.2%	24.8%	20.4%																													
否定的意見	10.0%	4.1%	12.6%	9.3%																													
<p>○学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計2</th> <th colspan="2">2024年度</th> <th colspan="2">2023年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>57.1%</td> <td>55.2%</td> <td>55.5%</td> <td>60.2%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>32.9%</td> <td>37.1%</td> <td>33.3%</td> <td>27.6%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>10.0%</td> <td>7.7%</td> <td>11.2%</td> <td>12.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体に評価が横ばいであるということは、一定、建学の理念や教育目標を日々の教育を通じ生徒に示していると考えられるが、十分とは言えない。 【自己評価△】</p>					アンケート集計2	2024年度		2023年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	57.1%	55.2%	55.5%	60.2%	中間的意見	32.9%	37.1%	33.3%	27.6%	否定的意見	10.0%	7.7%	11.2%	12.2%	<p>生徒は日々の活動を通じ、教育目標や建学の理念を学んでいくが、保護者に対しては、十分に示すことができていない。生徒・保護者ともより具体的に実感できる取組みを行う必要がある。</p>				
アンケート集計2	2024年度		2023年度																														
	生徒	保護者	生徒	保護者																													
肯定的意見	57.1%	55.2%	55.5%	60.2%																													
中間的意見	32.9%	37.1%	33.3%	27.6%																													
否定的意見	10.0%	7.7%	11.2%	12.2%																													
<p>○学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計3</th> <th colspan="2">2024年度</th> <th colspan="2">2023年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>75.8%</td> <td>81.0%</td> <td>74.4%</td> <td>76.4%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>19.3%</td> <td>14.9%</td> <td>20.5%</td> <td>17.9%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>4.9%</td> <td>4.1%</td> <td>5.1%</td> <td>5.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>情報発信については評価されていると考える。特に保護者の評価が肯定的なのは、担任や企画広報部を中心に、さくら連絡網など様々なツールを用いて、量的にも質的にも積極的に発信している成果と言える。 【自己評価○】</p>					アンケート集計3	2024年度		2023年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	75.8%	81.0%	74.4%	76.4%	中間的意見	19.3%	14.9%	20.5%	17.9%	否定的意見	4.9%	4.1%	5.1%	5.7%	<p>ホームページでの情報公開の回数、さくら連絡網による保護者向けの情報・連絡の発信、クラスルームを用いた生徒への発信等が前年度より増えたことにより、量的にも質的にも効果的な情報発信が行えている。</p>				
アンケート集計3	2024年度		2023年度																														
	生徒	保護者	生徒	保護者																													
肯定的意見	75.8%	81.0%	74.4%	76.4%																													
中間的意見	19.3%	14.9%	20.5%	17.9%																													
否定的意見	4.9%	4.1%	5.1%	5.7%																													
<p>○学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計4</th> <th colspan="2">2024年度</th> <th colspan="2">2023年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>68.5%</td> <td>59.7%</td> <td>66.9%</td> <td>62.4%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>25.1%</td> <td>34.0%</td> <td>24.9%</td> <td>30.8%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>6.4%</td> <td>6.3%</td> <td>8.2%</td> <td>6.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>毎月の保健便りの発行と記事の適正化、カウンセラーからの文書の配付を生徒を中心に行った結果と考える。この点で保護者への発信は足りていないと思われる。 【自己評価△】</p>					アンケート集計4	2024年度		2023年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	68.5%	59.7%	66.9%	62.4%	中間的意見	25.1%	34.0%	24.9%	30.8%	否定的意見	6.4%	6.3%	8.2%	6.8%	<p>保健室からの情報発信や、保健室での活動等を通じ、生徒は一定健康維持への支援を感じていると考えるが、そうした校内の活動が保護者まで届いていない場面が想定される。保健室からの保護者に向けた情報の発信機能も強化していく必要がある。</p>				
アンケート集計4	2024年度		2023年度																														
	生徒	保護者	生徒	保護者																													
肯定的意見	68.5%	59.7%	66.9%	62.4%																													
中間的意見	25.1%	34.0%	24.9%	30.8%																													
否定的意見	6.4%	6.3%	8.2%	6.8%																													
<p>○教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計5</th> <th colspan="2">2024年度</th> <th colspan="2">2023年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>72.7%</td> <td>64.7%</td> <td>68.1%</td> <td>58.8%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>21.1%</td> <td>28.1%</td> <td>24.9%</td> <td>31.2%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>6.2%</td> <td>7.2%</td> <td>7.0%</td> <td>10.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>全体に肯定的意見が増加しており、朝終礼において情報伝達等にとどまらない担任による活動が行われていると考える。 【自己評価△】</p>					アンケート集計5	2024年度		2023年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	72.7%	64.7%	68.1%	58.8%	中間的意見	21.1%	28.1%	24.9%	31.2%	否定的意見	6.2%	7.2%	7.0%	10.0%	<p>朝礼・終礼、ホームルームで担任が何をどのように伝えるか、生徒たちの声をどのように受け止めるかは、生徒指導やクラス作りをしていく上で非常に重要だが、この点においては、一定評価できる結果である。今後さらに、生徒たちへの話し方、生徒たちの声の聴き方、クラスや生徒の状態を観察するまなざし、そうしたことへの教員の意識のあり様、そうしたことを複合的に検証し、中間的意見を肯定的意見に転じさせていかねばならない。</p>				
アンケート集計5	2024年度		2023年度																														
	生徒	保護者	生徒	保護者																													
肯定的意見	72.7%	64.7%	68.1%	58.8%																													
中間的意見	21.1%	28.1%	24.9%	31.2%																													
否定的意見	6.2%	7.2%	7.0%	10.0%																													
<p>○教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計6</th> <th colspan="2">2024年度</th> <th colspan="2">2023年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>73.9%</td> <td>68.8%</td> <td>71.6%</td> <td>67.1%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>21.2%</td> <td>26.7%</td> <td>22.6%</td> <td>24.7%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>4.9%</td> <td>4.5%</td> <td>5.8%</td> <td>8.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒は、中間的意見、否定的意見とも減少し、肯定的意見が増加している。これまで行ってきた相談や個別の学習支援等の活動が一定評価されてきた表れと考える。 【自己評価△】</p>					アンケート集計6	2024年度		2023年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	73.9%	68.8%	71.6%	67.1%	中間的意見	21.2%	26.7%	22.6%	24.7%	否定的意見	4.9%	4.5%	5.8%	8.2%	<p>生徒の肯定的意見と中間的意見と合わせたならば 95.1%という評価は前年度より微増だが、肯定的意見が増加している点は重要である。生徒が自身の相談に関し十分に聞いてもらえているという思いを持っていることの証である。また保護者の肯定的意見も微増であることから、生徒の良い評価が保護者に伝わったためと考える。今後も相談を受ける際、生徒の思いをどのように、どの程度くみ取れているか、生徒が必要としているタイミングで応じていることができるか、できない場合の対応等はどうか、より一層に自己点検し、改善していかねばならない。</p>				
アンケート集計6	2024年度		2023年度																														
	生徒	保護者	生徒	保護者																													
肯定的意見	73.9%	68.8%	71.6%	67.1%																													
中間的意見	21.2%	26.7%	22.6%	24.7%																													
否定的意見	4.9%	4.5%	5.8%	8.2%																													

○教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている

アンケート集計 7	2024 年度		2023 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	71.7%	61.1%	68.9%	56.0%
中間的意見	22.5%	31.2%	24.4%	33.7%
否定的意見	5.8%	7.7%	6.7%	10.3%

生徒は、中間的意見、否定的意見とも減少し、肯定的意見が増加している。一人ひとりの学力の実態を把握しつつ、ICTやプリントなどさまざまなツールを利用した授業が行われてきた結果と考える。

【自己評価△】

生徒の肯定的意見は70%を超え、高校における学習の基本が授業とすると、授業という場面における教員の創意工夫は一定生徒に届いていると評価できるが、より一層改善を行っていく必要がある。また、ICTの利用や個別最適化など、学習を取り巻く環境は大きく変化し続けており、教員各自の自己研鑽のみならず、組織的な体制を整えることで、より良い授業づくりを行っていく。

○教員は、英語検定や漢字検定など将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している

アンケート集計 8	2024 年度		2023 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	74.7%	66.5%	70.7%	66.0%
中間的意見	20.8%	28.1%	24.0%	26.5%
否定的意見	4.5%	5.4%	5.3%	7.5%

文理ハイレベルコースにおける英検対策授業や総合進学コースでの商業科の授業内での取組み、関係教科の教員による放課後の補習や個別指導の実施などを通じ、生徒の評価が向上していると考ええる。

【自己評価△】

検定取得の有意・有効性について生徒に伝え、放課後の講座や朝学の時間を利用した学習活動の実施が、一定の評価として表れている。しかし、これらの活動が受検結果につながっておらず、この点からは「十分な指導・支援」とは言えない。主体的に学習に取り組み、検定に臨む生徒の絶対数を増やすためにも、単なる情報提供にとどまらない、意識付けの在り方も検討し実行していかなければならない。

○教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている

アンケート集計 9	2024 年度		2023 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	73.8%	63.4%	70.7%	60.2%
中間的意見	22.1%	30.3%	24.7%	30.1%
否定的意見	4.1%	6.3%	4.6%	9.7%

他の学習領域同様、生徒については中間的意見と否定的意見が減少し、肯定的意見が増加している。教科単位、教員単位での様々な取組みが評価されつつあると考える。

【自己評価△】

「分かる授業」や放課後の学習活動等が基礎学力の定着と向上につながっていると生徒は一定評価しており、否定的意見の減少につながっている。授業の改善による学力の定着と向上の促進や放課後等を利用した学習活動への促しをより強力に進めていくことが最重要課題である。また、ICTを利用した個別最適化による「学び直し」「学習内容の定着」に向けた活動の検証が必要である。

○教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している

アンケート集計 10	2024 年度		2023 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	73.4%	67.0%	70.9%	68.1%
中間的意見	21.7%	24.9%	23.7%	24.4%
否定的意見	4.9%	8.1%	5.4%	7.5%

生徒の肯定的意見は増加しているが、保護者の評価は下がっている。これは、進路指導において情報提供・指導とも生徒にはできていたが、保護者には十分届かなかったからと考える。

【自己評価△】

生徒の肯定的意見が73.4%であるということは、各科・各コースの生徒たちが自らの力で進路を決定できるよう、進路情報をきめ細かく提供し、粘り強く生徒の相談に応じてきたことが一定評価されたと考える。一方で保護者の評価が低下していることから、保護者との意思疎通等が満足いくものでなかったり、提供された情報の質や量が十分でなかったりした可能性も考えられる。

○緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している

アンケート集計 11	2024 年度		2023 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	74.2%	77.4%	68.6%	76.0%
中間的意見	20.0%	19.0%	22.8%	17.6%
否定的意見	5.8%	3.6%	8.6%	6.4%

緑涼祭や弁論・コーラス大会等、各種行事に生徒主体で取り組めるよう、担任・学年を中心に取り組んだ結果が肯定的意見の増加につながっている。

【自己評価△】

各種の学校行事やクラブ活動、生徒会活動は、生徒たちに充実した高校生活を保障し、生徒の成長を促すうえで極めて重要であり、これらの活動をいかに担保し、活動機会を設定・維持していくことが大切である。生徒の肯定的意見が74.2%という点について評価できる。各行事やクラブ活動を通しての教員と生徒との関わりや生徒自身の充足感が十分だったからだと考える。行事に取り組むこと自体を目的とするのではなく、行事を通じて何を学ばせるのか、その為にどのように取り組ませるのか、生徒に対する声掛けはどうしていくか、担任・学年団による仕掛けは必要であり、この点において常に点検・評価し、取り組み方を検討・実行する必要がある。

○教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している

アンケート集計 12	2024 年度		2023 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	67.9%	54.3%	62.6%	55.6%
中間的意見	26.3%	38.9%	31.1%	35.5%
否定的意見	5.8%	6.8%	6.3%	8.9%

十分とは言えないが、全体の否定的意見が減少し、肯定的意見の増加分に回っている点から一定活動状況は評価されたと考える。

【自己評価△】

○学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている

アンケート集計 13	2024年度		2023年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	68.5%	57.9%	63.5%	55.9%
中間的意見	21.4%	28.1%	25.8%	28.3%
否定的意見	10.1%	14.0%	10.7%	15.8%

生徒に納得のいく丁寧な説明をしつつ、指導を行うという姿勢について、中間・否定的意見とも減少し肯定的意見が増加しているということより、一定の評価を得ていると考える。しかし、今後も教員個々の指導の仕方も含めて改善を進める。

【自己評価△】

学校生活の基本である遅刻や身だしなみ、頭髪等について指導への理解は定着してきており、教員間の基準や指導のタイミングも一定共有され、生徒たちへなぜその指導を行うのかについての説明も十分ではないが行われている。今後も、より一層丁寧で粘り強い指導が求められている。

○学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている

アンケート集計 14	2024年度		2023年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	65.9%	44.8%	61.8%	42.7%
中間的意見	27.2%	44.8%	29.6%	40.5%
否定的意見	6.9%	10.4%	8.6%	16.8%

生徒の肯定的意見は65.9%と前年度より微増しているが、保護者の評価が40%超でとどまっている点は、相談への対応や本校の取組みが十分に伝わっていない表れと考える。今一度、アンケート実施後の連携体制強化と迅速な対応の重要性を全教員の共通理解としていく。

【自己評価△】

担任中心に学期ごとのいじめアンケート結果と日常的な生徒の動向を把握し、その萌芽に気づき、適切な手立てをとることで、いじめなど深刻化する前に対応していることが、生徒の肯定的意見の増加と保護者の否定的意見の減少につながっている。一方で保護者の受け止めとしては十分と感じきれない点が、肯定的意見が40%台でとどまっている原因と考える。いじめアンケートといったスポット的な取組みだけでなく、日常の様々な場面において、教員が人権に対する意識を持ち、生徒・保護者に伝えていくという活動を、今まで以上に取り組まなければならない。

○学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している

アンケート集計 15	2024年度		2023年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	69.5%	46.6%	63.5%	48.4%
中間的意見	25.8%	48.0%	29.3%	39.1%
否定的意見	4.7%	5.4%	7.2%	12.5%

生徒の評価は、日々の教育を通じ人権についての意識高揚が一定は図れている結果と考えられる。今後、まずは中間的意見が減少するよう日々の教育を行う必要がある。

【自己評価△】

各学年とも年に数回の人権学習を実施する一方で、教員も人権にかかわる研修を受講するなど、日々の教育を通じ人権についての意識が高まるよう取り組んできた結果と考える。

○学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している

アンケート集計 16	2024年度		2023年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	69.7%	57.9%	66.5%	59.5%
中間的意見	25.3%	37.1%	26.7%	35.8%
否定的意見	5.0%	5.0%	6.8%	4.7%

生徒の評価は、若干よくなっているが、ほぼ横ばいである。一方、保護者の評価が若干否定的なものとなっており、施設設備の整備等を進める必要がある。

【自己評価△】

生徒にとっては、大きな支障を感じていないし、環境やルールについては評価をしていると考える。しかし、施設・設備の老朽化等に対する対応や、男子生徒の増加に伴う使用方法の変化（これまでのようには丁寧に扱えない）ことなどを考慮に入れた整備等が必要と考える。

○学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている（総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等）

アンケート集計 17	2024年度		2023年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	65.0%	55.2%	60.2%	59.5%
中間的意見	28.6%	38.9%	31.9%	36.2%
否定的意見	6.4%	5.9%	7.9%	4.3%

地域社会との連携に直接かかわる生徒の数は相対的に多くはないが、校内で園児の活動の様子を見たり、校外での活動を聞く場面が一定あり、生徒の肯定的意見が昨年度から約5ポイント向上しているという点から生徒にとって好評であるという結果になったと考える。

【自己評価△】

総合的な探究の時間での講演や、園児の活動、地域活動の広報など、藤井寺市をはじめ地域社会と連携を行っているということが実感しやすい環境にあり、比較的良い評価になっていると考える。

3. 本年度の取組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導	<p>【1】生徒の学習状況</p> <p>(1) 教科会を活性化し、定期考査後のデータ分析による学習状況の把握を行い、以後の授業に反映する。</p> <p>(2) 授業内に確認テスト等を行い、生徒の学習状況を把握する。</p> <p>(3) 入学後のリメディアル教育、学力不振生徒の考査前の学力補充体制を検証し、継続して実施する。</p> <p>【2】教科・コースの教育活動</p> <p>(1) 授業内容を精選し、授業規律を徹底する。</p> <p>(2) 日常の授業を大切にす姿勢を教員・生徒が共に養い、チャイムと同時に授業を開始する習慣の定着や、出張等で生じる自習授業を時間割変更で削減する。</p> <p>(3) 各種検定の合格という成功体験が自己肯定感につながるということを教員が強く認識し、コースや学年の教員が積極的に支援を行い、合格率向上を目指す。</p> <p>(4) ICT 機器を授業の効率化や生徒のモチベーションを高めるツールとして利用することに留まらず、リモート授業やグループワークにも活用し、個別最適な学びと協働的な学びの教育活動に繋げる。</p> <p>(5) タブレットの利用を含め、導入済みのClassiやスタディサプリの利用を、教科、教員の偏りが出ないように、積極的に組織的な活用になるよう進める。</p> <p>(6) 総合的な探究の時間のカリキュラムの充実に向けた検討と実践を行う。</p>	<p>定期考査・模試の結果分析等に基づいた補習内容の検討および、見直した補習内容を実践する。</p> <p>教科会・コース委員会・教務部等が連携し、指導方法の検証・検討を行うとともに、一貫性・系統性のある指導と均質な授業を行う。</p> <p>放課後学習や長期休暇中の課題、有欠点者を対象に指名補習を行い、基礎学力の回復に努める。</p> <p>検定合格を視野に入れた授業の実践と補習を含めた様々な支援活動を実施する。</p> <p>グループワークやリモート授業など ICT の効果的な活用により実現可能な授業のあり様を研究・実践する。</p> <p>「総合的な探究の時間」のカリキュラムを充実させ、自己実現を図る動機付けを行う。</p>	<p>公開授業と授業アンケートに基づく授業改善の実施を含む、教科会での指導方法の検討・考察</p> <p>進路保障に向けた補習体制の強化</p> <p>学力不振生徒への学力補充活動の実施</p> <p>放課後を利用した学習活動の実施</p> <p>自習環境の確保</p> <p>教員間の連携、情報共有の徹底</p> <p>各検定に向けた取組みの実施</p> <p>ICTを利用した個別最適な学びと協働的な学びの実現</p> <p>「探究活動」の充実による幅広い学びの実践</p>	<p>公開授業を年2回実施。同時期、生徒による授業アンケートを実施。それらを基に教科会議を通じ、授業改善を図った。また、定期考査後に成績の分析を行うことで、指導内容や方法の確認を行った。それらを踏まえ、ICTを利用した授業や課題の実施等、適宜創意工夫を行っている。</p> <p>教科・科目によっては中学の学び直しから高校の授業を始めたり、必要に応じ中学時の学習内容を確認したりする等の取組みを行った。夏期・冬期の休業中には、有欠点者に対し学び直しや学習の方法を教授する場として補習を実施。放課後学習や個別指導を通じた学力の定着を図る活動を本年度も実施した。特に定期考査前などは学年主体で有欠点者や低学力の生徒を指名し学習会を行うなど、学力の定着に努めた。</p> <p>各コースにおいて適宜コース委員会を開催し、コース目標の達成に向けた取組みに関する課題を検討した。必要に応じて、各教科に対し、コース目標の達成に向けた取組みや補習内容の検討を依頼するとともに、授業の改善に向けた実践に注力した。</p> <p>結果として、「分かりやすい」授業の実践や「学力の定着」について肯定的な評価が増加するとともに、否定的評価が減少した。今後は、対面式のみならず ICT を利用した学習機会確保の研究や個別最適な学習に向けた方法の研究を進める。</p> <p>各種検定受検の意義・重要性について、進路指導の観点を中心に生徒に伝えている。受検に向けた取組みとして、英語検定については、文理ハイレベルコースでは英検対策授業を設置し、その他のコースでは、本校教員による放課後講座を開講した。また、漢字検定については、教科から長期休暇中の課題を出したり、朝の学習時間にプリント学習を行うことで対策を行った。</p> <p>全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験や情報処理検定については、放課後に補習を実施した。結果として受検に向けた取組みについての評価は向上しているが、検定結果が伴うものとなっていない。今後、結果の向上が果たせる取組みが必要である。</p> <p>総合的な探究の時間では、各コース・系統の目的に即した探究活動のプログラムを設定し、探究活動の充実を通じ、主体的に学習活動に取り組む姿勢をはぐくむ活動を実施した。特に総合進学コースは、系統の目標に沿った探究活動のテーマ設定と、それに基づく探究活動を行った。</p> <p>【教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている(2024 73.9%(生徒) 68.8%(保護者))(2022→2024(生徒) 60.1→71.6→73.9)】</p> <p>【教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている(2024 71.7%(生徒) 61.1%(保護者))(2022→2024(生徒) 59.6→68.9→71.7)】</p> <p>【教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図るように授業を工夫し、補習や個別指導を行っている(2024 73.8%(生徒) 63.4%(保護者))(2022→2024(生徒) 63.5→70.7→73.8)】</p> <p>【教員は、英語検定や漢字検定など将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している(2024 74.7%(生徒) 66.5%(保護者))(2022→2024(生徒) 62.7→70.7→74.7)】</p>

中期 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生活指導	<p>【1】 基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成</p> <p>(1) 教職員全員が協力して生活指導を行う意識を徹底する。</p> <p>(2) 校則遵守を徹底し、頭髪指導・身だしなみ指導の強化を行う。</p> <p>(3) 「挨拶」の大切さを説き、様々な場面で挨拶の励行を勧める。</p> <p>(4) 目標値を設定し、遅刻指導を行い、登下校指導を計画的に実施する。</p> <p>(5) スマートフォン・タブレットの安全な利用などの利用ルール作りを行う。</p> <p>(6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用防止など危機管理にかかわる事象の講演会等を行う。</p> <p>(7) いじめの対応に向けて、学期ごとに全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見と解決に繋げる。</p>	<p>校則遵守の意味を丁寧に説明し、自らの行為について生徒自身に考えさせる指導を行い、校則を遵守する必要があることを理解させる。</p> <p>校外での積極的な声掛け・挨拶をする。</p> <p>保護者とも連携し、生活指導部を中心に学年による指導を実施する。 保護者に指導方針を明確に伝え、協力して指導にあたる。</p> <p>現代社会における様々な問題や課題に対する理解を、校内での様々な活動を通じ進める。</p> <p>委員会及び生活指導部でいじめアンケートを実施する。結果を教員全体で情報共有し、早期発見、解決を図る。</p>	<p>説明と納得、生徒自身の思考を基本とする丁寧な指導</p> <p>教員からの積極的な声掛け・挨拶の実践</p> <p>指導が必要な時点で適切な指導を実施 保護者に対する指導方針の明確な説明と情報共有を実践</p> <p>様々な社会問題等に関する教科・ホームルーム・行事等の活動、講演会の実施</p> <p>いじめアンケートの実施と対応 いじめ対策委員会と生活指導部の連携</p>	<p>各学期初めの頭髪指導や学年集会、ホームルームの時間を通じ生活指導部、担任が指導方針や校則について説明を実施するなど、繰り返し校則遵守について、生徒に話をしてきた。また、身だしなみ強化週間を通じた指導の実施の他に、指導が必要な生徒については適宜指導するとともに、時間をかけて指導を繰り返し行っている。指導を行ったときは、保護者に連絡を入れ、説明を行うとともに協力を依頼し、学校と家庭が連携し指導するよう取り組んできた。生徒の評価は前年より改善されているが、今後も、生徒が自分の行いを内省できるよう、理解と納得を得させる指導の在り方を、引き続き検討・実践していかなければならない。</p> <p>登下校時などの挨拶や朝終礼、授業における声掛けを積極的に行った。</p> <p>【教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している(2024 72.7%(生徒) 64.7%(保護者))(2022→2024(生徒) 60.9→68.1→72.7)】</p> <p>【教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている(2024 73.9%(生徒) 68.8%(保護者))(2022→2024(生徒) 60.1→71.6→73.9)】</p> <p>【学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている(2024 68.5%(生徒) 57.9%(保護者)(2022→2024(生徒) 54.9→63.5→68.5)】</p> <p>現代社会における様々な問題については、講演会形式を中心に学習の機会を設けるとともに、朝終礼やホームルームなどの担任からの話を通じ、理解を進めた。</p> <p>朝終礼やホームルーム活動の際に生徒の反応や表情を丁寧に観察したり、必要に応じた個別相談の実施や、いじめアンケート結果を検証したりすることで、生徒の状況把握に努め、学年・分掌・教科担当等で共有を行った。また、保護者への電話連絡や家庭訪問などを通じ学校での様子の報告を行うとともに、家庭での様子を把握し保護者との共通認識を作ることにも努めた。こうした活動の結果、生活指導を適切と評価する生徒やいじめの対応に関する肯定的な評価の増加につながった。</p> <p>【学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている(2024 65.9%(生徒)44.8%(保護者))(2022→2024(生徒) 56.5→61.8→65.9)】</p> <p>【学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している(2024 69.5%(生徒) 46.6%(保護者))(2022→2024(生徒) 58.5→63.5→69.5)】</p>
	<p>【2】 帰属意識の高揚</p> <p>(1) 生徒会を中心に、弁論・コーラス大会、緑涼祭などの行事を生徒の企画・運営で実施する。</p> <p>(2) 課外活動が活発に行えるよう、生徒会を中心にクラブ入部率を高める活動を行う。</p>	<p>各行事を通して、生徒自身が考え、準備をするなど、生徒自身が活動していく場面が増えるよう支援を行う。</p>	<p>生徒自身の自主的・主体的活動の支援 クラブ紹介等の実施</p>	<p>コーラス大会や緑涼祭文化の部の取組みは、生徒が自分と仲間の個性や価値に気づき、クラスで協働していく経験を得る機会となった。生徒の評価は自分自身の達成感や充実感の表れであろう。今後は、行事を行っていく中で教員がどのようにクラスに関わり、生徒の主体性をどのように引き出していくのか、担任・学年団としての姿勢が問われている。</p> <p>【緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している(2024 74.2%(生徒) 77.4%(保護者))(2022→2024(生徒) 61.3→68.6→74.2)】</p> <p>【教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している(2024 67.9%(生徒) 54.3%(保護者))(2022→2024(生徒) 56.6→62.6→67.9)】</p>
	<p>【3】 不登校生対策</p> <p>(1) 不登校生等委員会を中心に不登校生や発達障害について生徒理解を深めていく。</p> <p>(2) 1学期中間考査期間中に、身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。</p>	<p>生徒の将来を第一に学年・部・委員会・スクールカウンセラーで連携を取りつつ、保護者と協力し支援を行う。</p>	<p>担任・学年・管理職・養護教諭・カウンセラー間の連携と不登校生等委員会の定例化 専門機関との連携の実施 情報交換会の実施</p>	<p>不登校生等委員会を定期的に開催し、不登校傾向のある生徒のみならず、様々な「気にかかる生徒」の状況について各学年と養護教諭、カウンセラー間で詳細な情報共有を図った。精神的な不安定さが身体的不調となって現れるケースが目立っており、担任・養護教諭が家庭と連携を取り、必要に応じてカウンセリングや専門医による治療も視野に入れながら対応した。</p>

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路指導	<p>【1】進路意識の高揚と進路実績の向上</p> <p>(1) 1年次よりキャリアデザインマップを活用し、総合的な探究の時間やホームルーム活動を利用してキャリア教育や進路学習を確実に行う。</p> <p>(2) 調理製菓科・普通科保育系進学コースなど、インターンシップや保育体験などを積極的に取り入れる。</p> <p>(3) 国公立大学の専門学科推薦制度について周知し、一般選抜での受験にも積極的にチャレンジできるよう、進路相談や受験対策を行う。</p> <p>(4) 就職を専門とする講座等を開設し、生徒に受講させ、意識を高めるとともに、求人先の開拓を進め、多様な業種・事業所から選択できるよう努める。</p> <p>(5) 大学入学共通テストについて分析を行い、教科、校務分掌、コース会議で対応を進める。特に、「情報Ⅰ」について、情報収集に努め、早急に対応体制を整える。</p> <p>【2】系列大学及び協定校との連携強化</p> <p>(1) 大阪商業大学、神戸芸術工科大学の特色や魅力を高大連携の小論文講座やキャンパスツアー等で早期に伝え、系列大学を進路選択の柱として位置付ける。</p> <p>(2) 協定校による特別授業の実施等を通して、各大学の特色を知ること、進学実績の増加へと繋げていく。</p>	<p>総合的な探究の時間やホームルーム、授業での活動が進路決定につながる指導計画を立案・実行する。</p> <p>進路実現に向け、多様化する受験方法の周知を実施する。</p> <p>インターンシップ・保育体験の企画を立案し、実施する。</p> <p>これまでの結果を基に指定校・協定校を確保し、進路選択の幅を広げる。</p> <p>受験に向けた学習や面接、各種書類の作成など受験方法に対応した対策を充実する。</p> <p>生徒の就職に必要な知識やスキルを向上させるための専門講座を実施する。</p> <p>大阪商業大学や神戸芸術工科大学の魅力を伝えるため、キャンパスツアーの実施や高大連携の講義を実施する。</p>	<p>総合的な探求の時間やホームルーム等における進路学習の実施</p> <p>長期休暇中の補習や放課後における学習活動の充実</p> <p>特別招聘授業の実施</p> <p>インターンシップの実施</p> <p>指定校・協定校の確保と協定校による出張講義の実施</p> <p>受験方法の周知等情報提供と受験結果の精査</p> <p>求人票の整理・資料化と情報提供の実施</p> <p>面接を中心とした就職試験対策の立案と実行</p> <p>早期の紹介による意識付けとキャンパスツアーの実施</p> <p>大阪商業大学・神戸芸術工科大学の教員による講義の実施</p>	<p>進路に関する様々な情報の提供は、ホームルームや総合的な探究の時間での講演といった形で実施し、具体的に進路決定に向けた事柄を伝えてきた。特に総合進学コースにおいては、系統の選択のタイミングでもある1年次において、協定校を中心に多数の学校に情報提供をしてもらっている。</p> <p>こうした活動を通じ、進学先は4年制大学が中心となり、学部学科も多岐にわたるようになった。受験方法も指定校・協定校による推薦入試と総合型選抜を軸としつつ、学校推薦型や一般型など学力を用いた受験方法と、多岐・長期にわたってきた。それに併せ、3年生向けの補習はコース別ではなく、受験科目や受験したい学校のレベルに即した編成で実施した。これまで以上に学力等で受験する生徒への組織的・継続的な指導が必要である。</p> <p>調理製菓科では、コースとしてインターンシップやマナー講座に伴う現場体験などの実施、現場のシェフによる授業の実施等、現場と学びの場をつなぐ活動を行っている。これらの経験をふまえ、就職希望先としてインターンシップ先や、同様の職種・業態を希望する生徒も増えており、キャリア育成でも効果をあげている。</p> <p>求人票を基に、進路指導部・担任で繰り返し丁寧な相談と、企業訪問を実施するなど、生徒の希望と企業とのマッチングを丁寧に行った。また、数度にわたる面接指導を通じ、生徒の意識の向上を図り、より確実な採用結果へと繋げることができた。しかし、調理製菓科の場合、高校求人を出していないケースも多く、求人票の送付まで時間がかかり、生徒本人・保護者が不安に感じることもあったので、粘り強く、求人票の依頼を行う必要は今後も続けなければならない。</p> <p>大阪商業大学については、総合進学コースを中心に「総合的な探究の時間」における講義や課題の設定、2年生のほとんどの生徒対象にキャンパスツアーを実施するなどの取組みを続けている。その結果、3年続けて20名前後の進学者数となり、本校の進学先として認知され希望者を一定数確保できるようになった。</p> <p>本年度は本校教員向けに改めて神戸芸術工科大学の見学会を実施した。そこで得た情報や体験を基に周知等の対策を行い、神戸芸術工科大学への進学者確保を目指す。</p> <p>【教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している(2024 73.4%(生徒) 67.0%(保護者))(2022→2024(生徒) 63.1→70.9→73.4)】</p>
	入試・渉外	<p>【1】広報活動の強化</p> <p>(1) 全教職員で募集活動を行うという意識を持つ。</p> <p>(2) 募集行事に在校生が積極的にかかわり、地域から信頼される学校を目指す。</p> <p>(3) オープンスクール・入試説明会の充実を図り、短時間でも本校の魅力が伝わるような工夫を行う。</p> <p>(4) 大阪商業大学・神戸芸術工科大学の系列校であることの認知度を高める努力をする。</p>	<p>日々の教育が広報活動であることを教員が認識し、教育活動を実施する。</p> <p>南河内・中河内を中心に、大阪市内南部、奈良県中南部の中学校、塾への積極的な訪問活動を実施する。</p> <p>オープンスクール・入試説明会の充実を図り、適宜点検し、改善する。</p> <p>大阪商業大学や神戸芸術工科大学の系列校であることの認知度を高める広報を実施する。</p>	<p>日々の教育活動</p> <p>中学との連携状況</p> <p>受け入れ授業・出前授業の実施</p> <p>計画的な渉外活動の実施</p> <p>各種外部説明会への参加</p> <p>近隣中学校及びその周辺、特に大阪市や堺市北部からの出願状況</p>

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
入試・渉外	<p>(5) 受け入れ授業・出前授業の機会など中学校との接点を多く作り、信頼関係構築に努める。</p> <p>(6) 近隣だけでなく広範囲の中学校に、スポーツ特待生制度・クラブ奨学生制度を周知し、志願者増加につながる募集活動を実施する。</p> <p>【2】専願受験者の確保</p> <p>(1) 各コースの特徴的な教育活動をアピールすることで専願志望者 200 名を目指す。</p> <p>(2) スポーツ特待生制度、クラブ奨学生制度を活用して、スカウティングに注力する。</p> <p>(3) 普通科保育系進学コース及び調理製菓科の充実した施設・授業内容を説明し、専願志望者増を目指す。</p>	<p>出前・受け入れ授業の充実を図り、重点地域の中学生に本校を体験してもらう機会を設ける。</p> <p>渉外担当者による中学校訪問に加え、クラブ活動での中学校との練習試合も広報の機会とした積極的な広報活動を実施する。</p> <p>パンフレットとホームページ・SNS の連動性の充実による魅力を発信する。</p>	<p>各種イベントの参加状況（参加者数やリピーターの状況等） 出願状況</p>	<p>近隣中学校からの受け入れ授業は、藤井寺市・松原市の中学校を中心に行われており、3年生全員が本校に来校してくれる中学校もある。信頼関係の構築が良好であるからであり、受験者数も増加した。この関係は今後とも継続していかねばならない。一方で出前授業は大阪市内を中心に行われており、広報活動の機会としては非常に重要である。これらの機会を利用し、オープンスクールへの参加や出願へとつなげていけるよう、更なる内容の充実を図る。</p> <p>受験生が受験情報や学校の情報を集める際、ホームページは大きな割合を占めているが、ホームページにつなぐ媒体として SNS は有効なものと考えており、今後も効果的な利用方法を模索しつつ、中学生と本校をつなぐものとしていきたい。志願者数（2023 年度入試→2025 年度入試 545→556→564） 入学者数（2023 年度入試→2025 年度入試 187→186→214）</p>
その他	<p>【1】保護者との連携</p> <p>(1) 1 学期末に三者懇談を行い、生徒の学習状況の報告と本校の教育活動への理解と協力を求める。</p> <p>(2) 教育懇談会や授業参観を開催し、本校の教育を可視化する機会を増やし連携を深める。</p> <p>(3) さくら連絡網やホームページを利用し、感染症対策や気象警報等に伴う休校などの情報を配信するだけでなく、生徒の活動情報を随時配信し「開かれた学校」を目指す。</p> <p>【2】地域との連携</p> <p>(1) 藤井寺市との連携協定に基づき、地域の保育所・幼稚園、小・中学校との教育・文化交流を深め、地域に信頼される高校を目指す。</p> <p>(2) 保育系進学コースと藤井寺市立第一・第三保育所、藤井寺市立図書館との連携を継続する。</p>	<p>本校教育の可視化におけ、教育懇談会や授業参観などを実施することで教育の可視化する機会を増やす。</p> <p>担任・分掌等様々な役割や場面でさくら連絡網を利用した情報発信を図る。</p> <p>ホームページにおける「News」を充実させる。SNS を利用した情報を発信する。</p> <p>地域の保育所・幼稚園・小・中学校との教育・文化交流の実施 各コース・クラブ等の藤井寺市を中心とした地方公共団体や地域事業体主催イベントへの積極的な参加 「総合的な探究の時間」における探究活動の実施 藤井寺市の委員会・審議会の見学実施 生徒会・クラブ員を中心とした地域清掃の実施</p>	<p>教育懇談会や授業参観の実施 さくら連絡網やホームページ等における情報発信</p> <p>保育所・幼稚園の受け入れの実施 小学生・中学生との交流事業の実施 各種イベントへのコース・クラブ・有志での参加 探究活動の計画・実施 委員会・審議会の見学講演会の実施 清掃活動の実施</p>	<p>1 学期末に三者懇談を実施し、保護者に報告を行うとともに、2 学期には特に学力評価が低い生徒に関し保護者に状況の報告を行い、協力を依頼した。</p> <p>参観日を各学年 1 回実施するとともに、同日教育懇談会を実施し、学年ごとに重要事項等を保護者に報告した。また、調理師コースは、3 年総合調理実習において保護者公開を複数回行い、製菓衛生師コースは、3 年生のスイーツコンテストを保護者に公開することで 3 年間の成果を示した。</p> <p>さくら連絡網を担当・学年・分掌・事務室等様々なセクションで活用することで、情報発信の頻度・速さが向上している。また、電話連絡が難しい保護者とはさくら連絡網を使用することでコミュニケーションをとることができている。また、ホームページや SNS における行事やクラブの活動状況の公開頻度が前年度よりも増えた。こうした活動が、特に保護者の評価につながっている。</p> <p>【学校は学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている（2024 75.8%（生徒）81.0%（保護者））（2022→2024（生徒）63.2→74.4→75.8）】</p> <p>地域清掃の実施、民間事業者主催イベントへの保育系進学コースを中心とした生徒の参加や市民展へのクラブ出展と、様々な形で地域への参加が増えてきている。「地域と社会」システムでも藤井寺市に関わるフィールドワークを行うなど、地域に根差した活動が増えてきた。年を追うごとにイベント等への参加協力の依頼や打診も増え、様々な形で地域との交流を図ることができるようになってきた。</p> <p>また、藤井寺市との連携協定の枠組みを通じ、本校を会場とした小中学生向けの「サマースクール」と、主にクラブを体験する「ウィンタースクール」を実施した。</p> <p>また、藤井寺市の審議会見学を実施した。参加者はまだ少ないが、このような機会を活かし生徒の意識の高揚を図る。</p> <p>【学校は、藤井寺市をはじめとする地域社会との連携を深めている（総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等）（2024 65.0%（生徒）55.2%（保護者））（2022→2024（生徒）54.3→60.2→65.0）】</p>

大阪緑涼高等学校「令和6年度 学校評価に係る外部評価者会議」議事録

日時：令和7年9月24日（水）10時50分～12時15分

場所：事務棟3階 第一会議室

出席者：藤井寺市教育委員会	教育長	見浪 陽一
藤井寺市区長会	会長	上田 裕彦
藤井寺市春日丘自治会	会長	坂本 民雄
辛國神社	宮司	伊藤 進
大阪緑涼高等学校	校長	西本 真治
大阪緑涼高等学校	副校長	菊地 慎二
大阪緑涼高等学校	教頭	渡邊 祐子
大阪緑涼高等学校	事務長	音川 圭美
欠席者：大阪緑涼高等学校保護者会	会長	井上 彰人

進行：教頭 渡邊 祐子

記録：事務室 山崎 かほる

○自己紹介

本会議出席者より自己紹介を行った。

○校長挨拶

本会議参集に対する御礼と、本校の新たな学校作り等について様々な観点からご意見をいただきたいと述べられた。

○資料「令和6年度 大阪緑涼高等学校 学校評価」に基づき、菊地副校長より以下の報告が行われた。

1. 目指す学校像

学校法人谷岡学園の設置校である本校の建学の理念「世に役立つ人物の養成」に基づく、4つの柱を実現するため、以下の項目を目指す学校像として設定した。

【1】建学の理念に基づく教育

- (1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」と4つの柱を念頭に自校教育・心の教育を行う。
- (2) スクール・ミッションに沿った教育活動を具体化・体系化し、生徒や保護者及び、地域への浸透を図り、安定した入学生徒数を確保できる学校を目指す。

【2】学科・コース・系統の取組み

- (1) 各コースがスクール・ポリシーを基に、コース委員会を中心に教育課程表に基づく教育活動を具体化し推進する。
- (2) 各コース・系統の教育活動を総括し、問題点を明確にして改善に向け、新たな取組みを行っていく。

2. 中期目標

目指す学校像に基づき、具体化したものを中期目標として示している。

3. 評価年度の取り組み内容および自己評価

令和5年度と令和6年度の集計結果を比較すると、全体的に否定的意見は減少し、肯定的意見は増加している。

- ・本校に入学してよかった、子どもを入学させてよかったかについては、生徒の肯定的意見が70%に達していないのは残念だが、保護者の肯定的意見が70%を超過しているのは、本校の教育活動に関する情報が保護者に届いていることが要因と考える。
その根拠として、アンケート3の情報発信において、保護者の肯定的意見が80%を超過していることが挙げられる。
- ・大きく評価が向上している情報発信については、さくら連絡網という配信ツールを使って担任だけでなく、クラブ顧問、各分掌からも学校の様子を直接保護者へ配信することが定着しており、また、企画広報部が投稿しているHPでの情報発信についても、かなりの多くの件数を発信している。生徒に対しては、Googleのクラスルームを使った情報配信をしている。これらの点が、肯定的意見の向上に繋がっていると考えられる。

- ・情報ツールの活用だけでなく、ホームルームでの担任による生徒指導やクラス作りの取組みが生徒に伝わっている結果、アンケート 5 において生徒の肯定的意見の増加に繋がっていると考えられる。
- ・アンケート 6 の学習や高校生活に関する相談に応じているかの生徒の肯定的意見について、昨年度より増加しているのは、教員に対する話しやすさが要因となっている。これは、アンケート 7 の学習面においても、話しやすさから生徒と教員の距離が近く、生徒が理解していないことを教員が察知しやすい関係性があり、授業の分かりやすさに繋がっているからと考える。
- ・アンケート 9 の基礎学力の定着においても、生徒の肯定的意見が 73.8%であることから、生徒に分かりやすい授業が行われていることがわかる。ただし、アンケート 6、7、9 の保護者の肯定的意見が 70%を超過していないのは、様々な取組みが生徒には伝わっているが、保護者へは伝わり切れていないことが要因であると言える。保護者は、各学期の成績で評価する。学習面での取組みが成績に反映されていない点においては、基礎学力の定着には更なる工夫が必要と考える。
- ・アンケート 11 の学校行事については、生徒、保護者とも肯定的意見が高い。生徒は、学校行事を楽しいものと考え、それが保護者にも伝わっているからだと考える。
- ・アンケート 10 の進路についても、生徒にはきめ細かい情報提供等により肯定的意見が向上しているが、保護者には必要とする情報提供ができていなかった点があるのか、保護者の肯定的意見が昨年度より減少している。
- ・アンケート 13 の生活指導面において、生徒の否定的意見が 10%を超過している。生徒が生活指導について理解するのは難しいが、これは、教員の指導している内容をそのまま鵜呑みにするのではなく、生徒自身が自分で考え判断する力があるとも考えられる。従って、ただ生徒の肯定的意見が 80%、90%を超えれば良いというアンケート内容ではないとも言える。
- ・アンケート 16 の施設設備については、最近の酷暑において生徒は我慢しているのではと思われるが、保護者会にも協力を仰ぎ体育館の空調の改善を行った。
- ・アンケート 17 の地域社会との連携について、これまで保育系進学コースを中心として行ってきたが、令和 6 年度は、クラブ活動や総合進学コースにおいても地域への関わる機会が増えてきた。藤井寺市だけでなく、羽曳野市等、生徒が育った地域への参画も積極的に行っていきたい。

(1) 学習指導

- ・学習面においては、デバイス利用の機会が増えてきた。校内研修において、活用例を共有している。
- ・従前より行っている職員室前での個別指導や、放課後の指名制による補習等の結果が、授業の分かりやすさに繋がっている。
- ・簿記検定については商業科が、情報処理検定は情報科の教員が、放課後に指導することで、受験率が向上した。残念ながら、検定合格の結果にはまだ繋がっていないが、引き続き取り組んでいく。

(2) 生活指導

- ・生徒たちは、生徒指導に不満を感じるものではあるが、粘り強い丁寧な指導により一定の評価は得られている。また、生徒を指導した際には、保護者と情報共有し、改善に向け保護者にも協力を仰いでいる。生徒、保護者ともに本校の生徒指導について理解していることが、評価に繋がっていると考える。

(3) 進路指導

- ・総合進学コースを中心に、系列校である大阪商業大学や神戸芸術工科大学へのキャンパスツアー等の実施で進学に繋がっている。
- ・保育系進学コースについても、4 年制大学への進学が増加した。
- ・調理製菓科は、教員の企業訪問等で生徒の希望に沿う新たな求人を得ることができた。また、入学当時は、卒業後就職してパティシエになると考えていた生徒が、本校の 3 年間の専門授業により、さらに専門的に学びたいと専門学校に進んだり、大学に進学したりしている。生徒の進路選択の可能性を広げる教育を意識している結果である。

(4) 広報

- ・広報については、アンケート結果には直接関わっていないが、志願者数、入学者数が 3 年間で増加している。近隣の人口が減少している中、増加しているのは評価できる。これは、生徒への指導の結果が生徒や保護者のあり様であり、それが中学校教員に評価され、志願者数の増加に繋

がっていると考える。

- ・地域との連携については、近隣の小中学生を対象とした、体験授業が中心のサマースクールと、クラブ体験を中心としたウインタースクールを開催し、参加者に本校の魅力を紹介することができた。

○意見交換

菊地副校長からの説明終了後、外部評価者より、次のとおり質問・感想が述べられ、本校管理職と意見交換を行った。

質問：アンケート結果の全ての項目について、高評価という結果は素晴らしい。

気になる点は、アンケート4の保健促進や、アンケート14のいじめ防止についての保護者の肯定的意見が高くないことである。学校からの情報発信については高評価であるのに、そのギャップの原因はどのように考えているか？

回答：いじめ防止に関する内容や人権教育の実施等の発信をHPで公表しているが、保護者に直接伝わっていない可能性がある。

意見：藤井寺市でも授業改善に取り組んでいる。分かりやすい授業は、やはり成績が伸びている。分かりやすい、わくわくする授業への取組みを藤井寺市も行っているが、緑涼高校も引き続き取り組んでいただきたい。

意見：藤井寺市や緑涼高校のことではないが、最近報道で取り上げられている教員の盗撮に関して、服務規律の徹底が必要である。藤井寺市では、市内の小中学校において一斉点検を行い、結果報告を保護者へ行った。報告することで保護者の安心を確保している。緑涼高校も引き続き、服務規律を徹底していただきたい。

質問：授業料無償化について、完全無償化になるのは何年からか？

回答：次の新入生、令和8年度からである。

意見：完全無償化は、私学においては追い風になる。府立高校の数を減らすと聞いている。この機会を入学生確保に活かしていただきたい。

質問：去年の本会議において校長が、教員が同じ方向を向いて教育活動を行っているという説明があったが、今回のアンケートは、その結果と伺える。

その中で、アンケート1の入学させて良かった点について、保護者の高評価の原因は何と考えるか？ 情報発信力か、それとも学校行事か？

回答：原因が何かと考えるのは難しい。本校は、学力帯に厳しい層が入学している。中学校で通学できていない生徒も入学してきている。保護者の願いとしては、卒業できるだけで高評価に繋がる場合もある。入学させて良かったかという問いに、よっぽど嫌なことがなければ、概ね良かったと回答する傾向もある。

意見：その中で、学校行事が楽しかったと子供が言えれば、保護者には安心材料になるかもしれない。

質問：やはり、いじめ防止に関するアンケート結果については、生徒と保護者の回答のギャップが気になる。

回答：いじめ防止に関しては、生徒が発していることを見逃さない教員の日々の積み重ね、努力を続けることが重要と考えている。

意見：教育機関なので、ここに記載の目指す学校像について実現するように、常に、あらゆる努力をしていると思うが、気になるのは、地域連携についてである。町のイベントについては、他校の高校から積極的に参加しているのはよく見かけるが、緑涼高校の教員が参加するのはあまり見かけない。これまでと違った面での地域連携の取組みも進めてみてはどうか？

その他、自転車通学について、自転車を並行して通学する様子を見ることが多い。藤井寺市には狭い道もあるため、安全のため指導を徹底してほしい。

また、保護者にも藤井寺市への愛着を持っていただきたい。縁を感じていただける取組み等あれば良い。

質問：卒業者は何人程度であるのか？ 200名程度？ その中で進学するのは何割いるのか？

回答：進学する生徒は、4割程度である。

質問：就職する割合は、どの程度であるか？

回答：2割程度である。

質問：調理製菓科は、ほとんど就職するのか？

回答：進学する生徒もおり、系列校の大阪商業大学へ進学する生徒や、より専門的な知識や技術を得るため専門学校に進学する生徒もいる。

質問：就職は難しいのか？

回答：高卒採用は、高校を經由して採用活動を行う「指定校求人」が一般的で、独自のルールが定められているため、難しい点もある。本校では、調理師コースより製菓衛生師コースの求人が少ない傾向にある。

質問：系列校に進学するのは、どのコースが多いのか？

回答：大阪商業大学への進学は、総合進学コースが多いが、文理ハイレベルコースや調理製菓科からも進学する。神戸芸術工科大学は、遠方であるため、進学する生徒はかなり少ない。

意見：制服が変わり、シンプルで良い。

質問：生徒数は増加しているのか？

回答：少しずつではあるが、増加している。近隣の中学3年生の人口が減少しているので、評価しても良いと考えている。

意見：駅から近い緑涼の立地は良い。天王寺からでも通学時間がさほどかからない。

回答：大阪市内の生徒は、全体の3分の1程度。残りは、近鉄沿線の松原市、羽曳野市、藤井寺市、富田林や柏原市に在住している。

意見：緑涼の生徒は明るくて良い。朝、生徒達が元気に挨拶をしてくれる。

質問：緑涼高校に校名変更して何年経つのか？

回答：8年目である。

質問：校舎は建てられてどの程度経つのか？

回答：建物によるが、25年～60年超えている校舎もある。体育館が一番古く、それ以上経過している。

意見：建物の老朽化は、課題である。私学を選ぶ要素として、施設は重要である。

質問：ICTは活用されているようだ。他校では進んでいないところもある。Classiiは活用されているか？

回答：朝の学習時間で活用している。特に若手教員が積極的に活用している印象がある。さらに使用する機会が増える仕組みを考えなくてはならない。

質問：昔、大阪女子短期大学で公開セミナーに参加した。最近は開催していないのか？

回答：今はしていない。

意見：高齢者にとっては、学習の機会があるとありがたい。

質問：学び直しについては、どのような取り組みをしているのか？

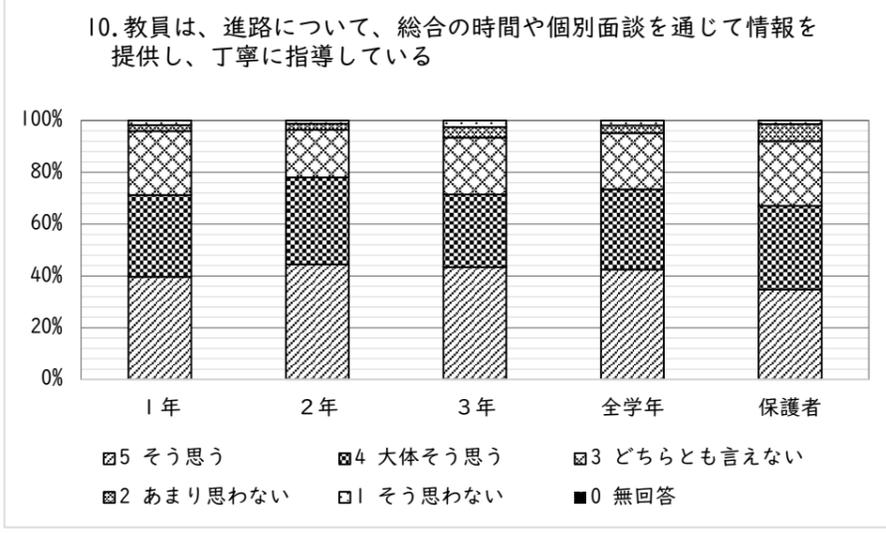
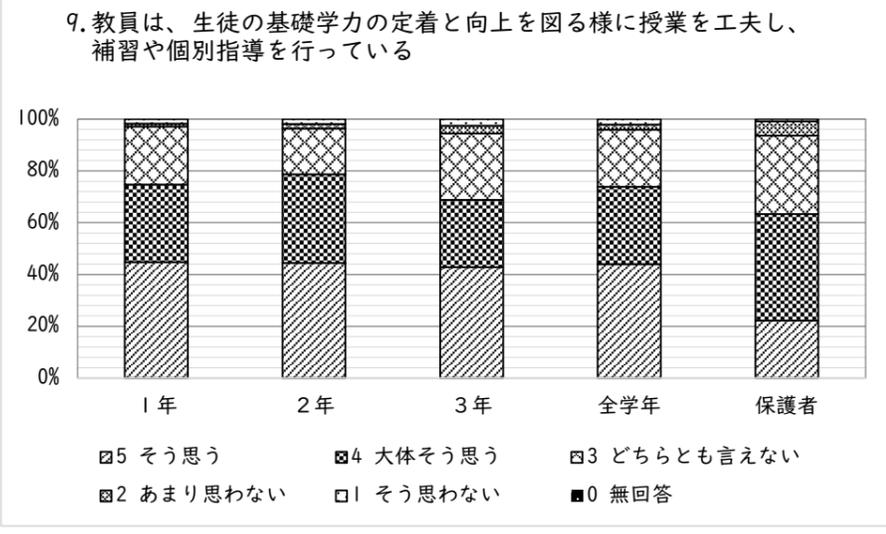
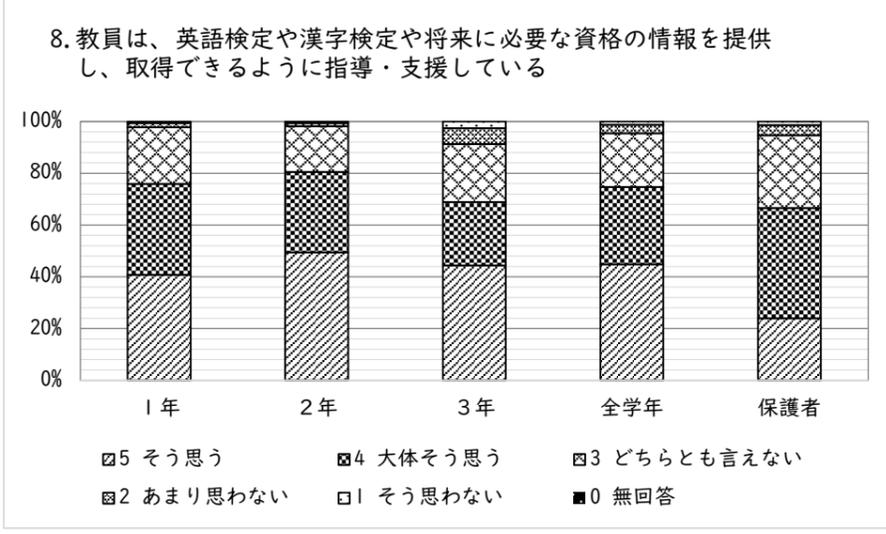
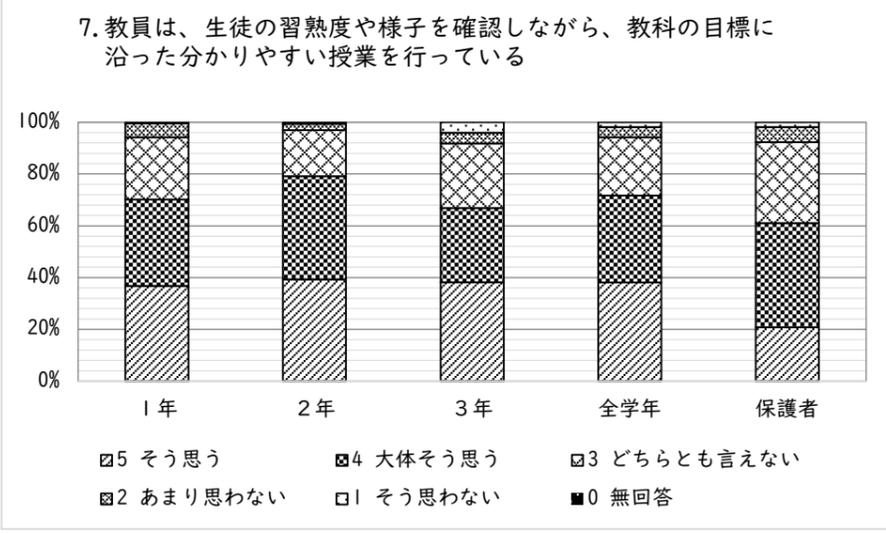
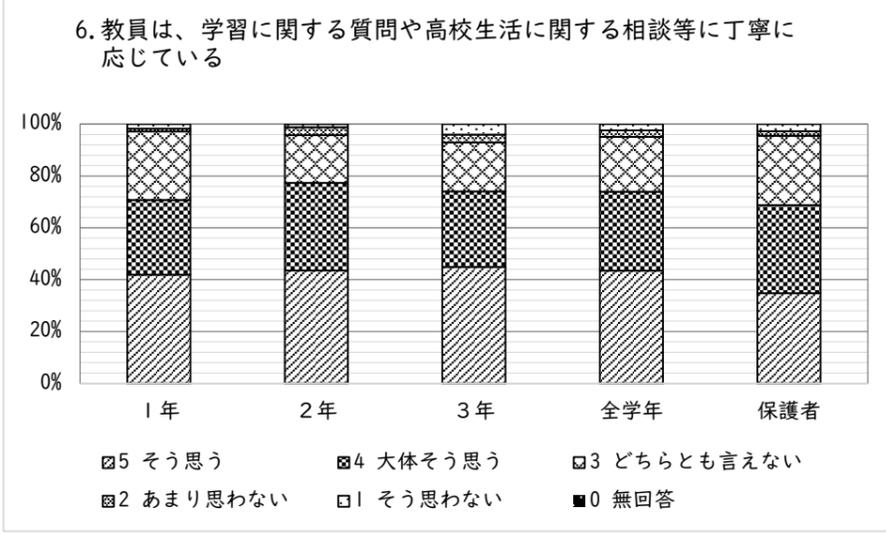
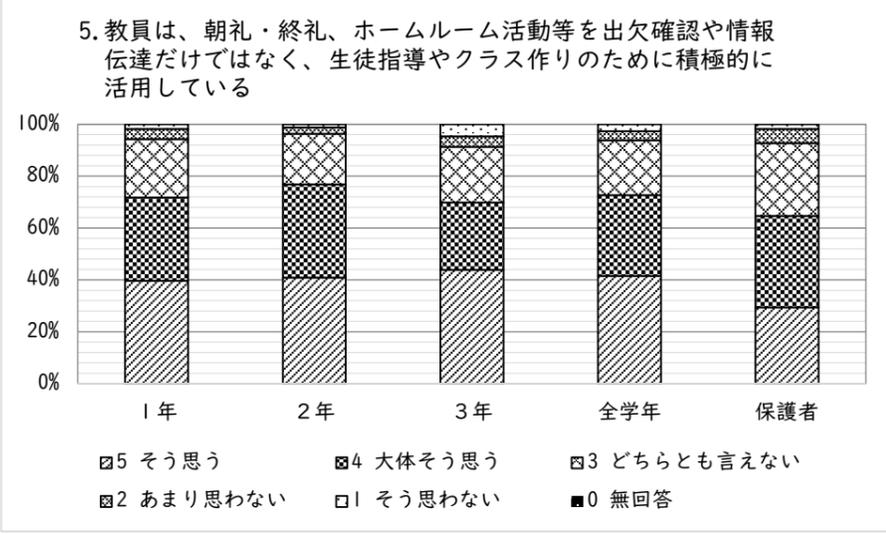
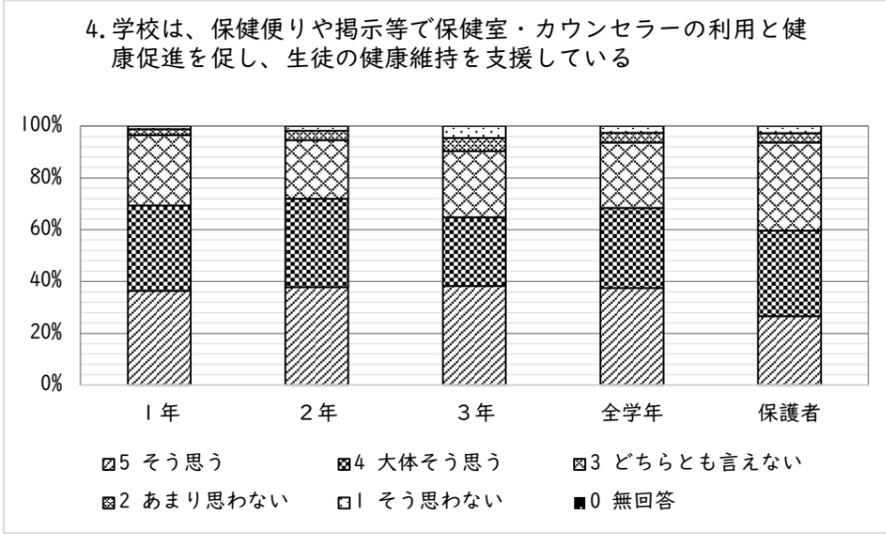
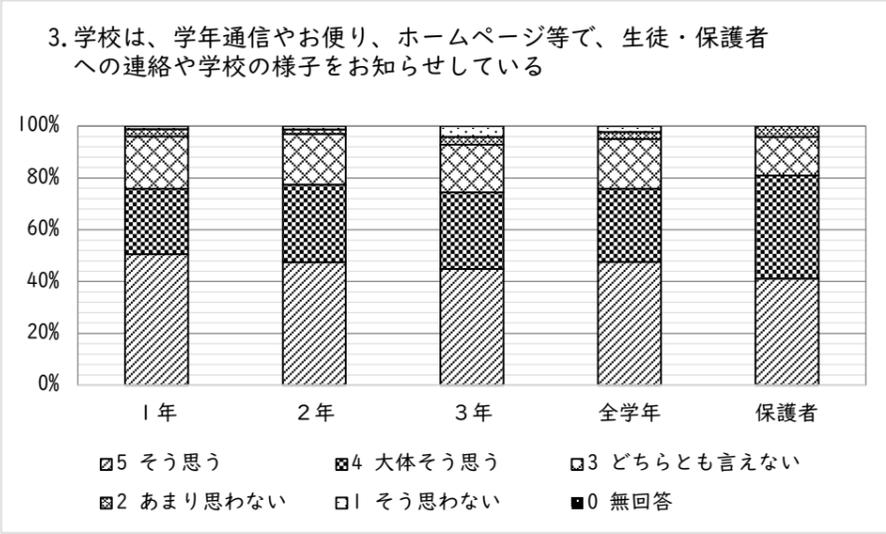
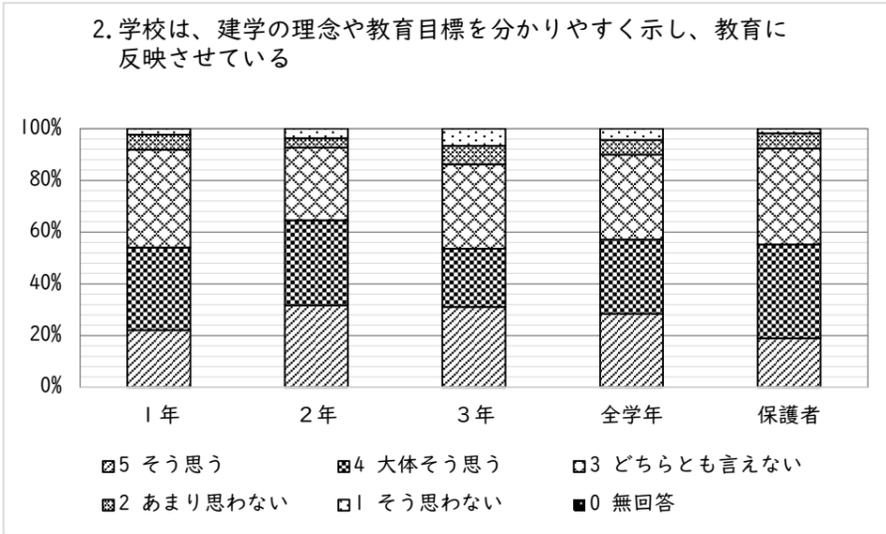
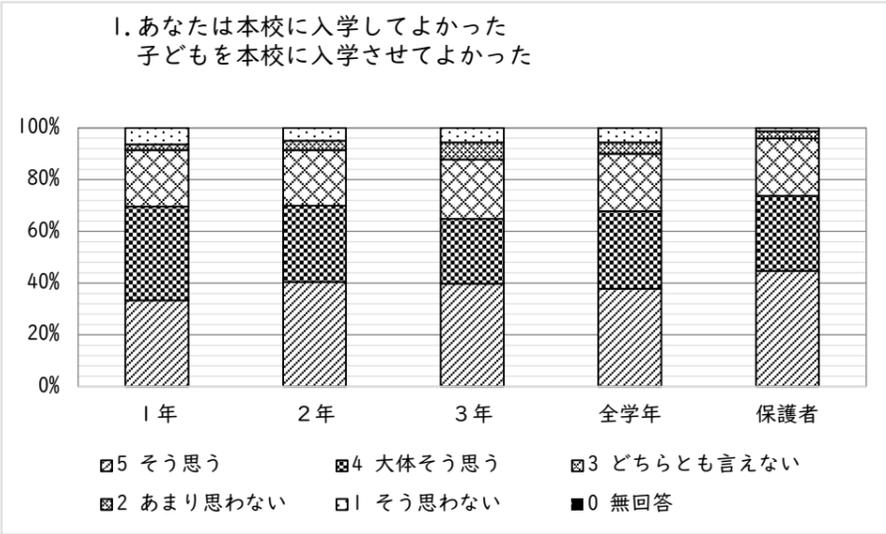
回答：1年生で高校の教材をメインに取り組んでいるが、中学校での内容を並行して学習する教科もある。現在、教務部で教育内容の再構築を検討している。授業やスタディサプリ、放課後の時間を活用する等、仕掛けを作りたい。

最後に、進行の渡邊教頭から外部評価者へ貴重なご意見のお礼を述べた後、会議を閉会した。

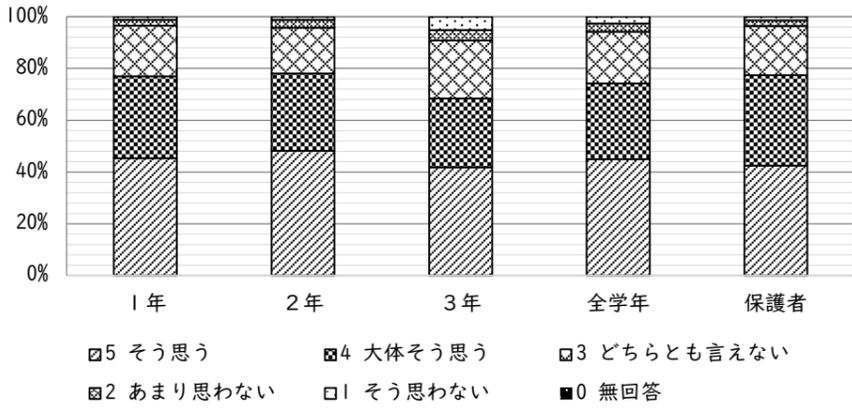
以上

2024年度 学校評価アンケート集計（設問は、保護者向けのものを使用しています）

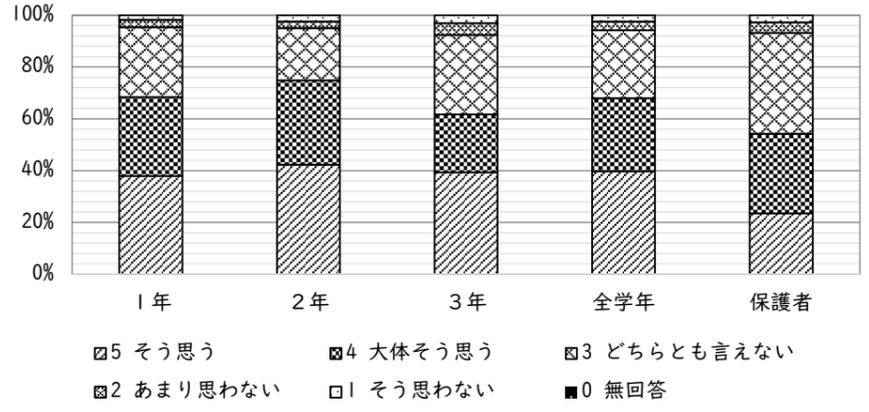
設 問		学年	5 そう思う	4 大体そう思う	3 どちらとも言 えない	2 あまり思わな い	1 そう思わない	0 無回答	-	+
1	あなたは本校に入学してよかった 子どもを本校に入学させてよかった	1年	33.3%	36.2%	21.8%	2.3%	6.3%	0.0%	8.6%	69.5%
		2年	40.5%	29.4%	21.5%	3.7%	4.9%	0.0%	8.6%	69.9%
		3年	39.8%	25.0%	23.0%	6.6%	5.6%	0.0%	12.2%	64.8%
		全学年	37.9%	30.0%	22.1%	4.4%	5.6%	0.0%	10.0%	67.9%
		保護者	44.7%	29.0%	22.2%	2.7%	1.4%	0.0%	4.1%	73.7%
2	学校は、建学の理念や教育目標を分かりやす く示し、教育に反映させている	1年	22.1%	32.0%	37.8%	5.8%	2.3%	0.0%	8.1%	54.1%
		2年	31.7%	32.9%	28.0%	3.7%	3.7%	0.0%	7.3%	64.6%
		3年	31.1%	22.4%	32.7%	7.1%	6.6%	0.0%	13.8%	53.6%
		全学年	28.4%	28.7%	32.9%	5.7%	4.3%	0.0%	10.0%	57.1%
		保護者	19.0%	36.2%	37.1%	5.9%	1.8%	0.0%	7.7%	55.2%
3	学校は、学年通信やお便り、ホームページ等 で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお 知らせしている	1年	50.6%	25.3%	20.1%	2.9%	1.1%	0.0%	4.0%	75.9%
		2年	47.6%	29.9%	19.5%	1.8%	1.2%	0.0%	3.0%	77.4%
		3年	44.9%	29.6%	18.4%	3.1%	4.1%	0.0%	7.1%	74.5%
		全学年	47.6%	28.2%	19.3%	2.7%	2.2%	0.0%	4.9%	75.8%
		保護者	41.2%	39.8%	14.9%	4.1%	0.0%	0.0%	4.1%	81.0%
4	学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウン セラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康 維持を支援している	1年	36.4%	32.9%	27.2%	2.3%	1.2%	0.0%	3.5%	69.4%
		2年	37.8%	34.1%	22.6%	3.7%	1.8%	0.0%	5.5%	72.0%
		3年	38.3%	26.5%	25.5%	5.1%	4.6%	0.0%	9.7%	64.8%
		全学年	37.5%	31.0%	25.1%	3.8%	2.6%	0.0%	6.4%	68.5%
		保護者	26.7%	33.0%	34.0%	3.6%	2.7%	0.0%	6.3%	59.7%
5	教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を 出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導 やクラス作りのために積極的に活用している	1年	39.7%	32.2%	22.4%	4.0%	1.7%	0.0%	5.7%	71.8%
		2年	40.9%	36.0%	19.5%	2.4%	1.2%	0.0%	3.7%	76.8%
		3年	43.9%	26.0%	21.4%	4.1%	4.6%	0.0%	8.7%	69.9%
		全学年	41.6%	31.1%	21.1%	3.6%	2.6%	0.0%	6.2%	72.7%
		保護者	29.4%	35.3%	28.1%	5.4%	1.8%	0.0%	7.2%	64.7%
6	教員は、学習に関する質問や高校生活に関す る相談等に丁寧に応じている	1年	42.0%	28.7%	26.4%	1.1%	1.7%	0.0%	2.9%	70.7%
		2年	43.6%	33.7%	18.4%	3.1%	1.2%	0.0%	4.3%	77.3%
		3年	44.9%	29.1%	18.9%	3.1%	4.1%	0.0%	7.1%	74.0%
		全学年	43.5%	30.4%	21.2%	2.5%	2.4%	0.0%	4.9%	73.9%
		保護者	34.8%	34.0%	26.7%	1.8%	2.7%	0.0%	4.5%	68.8%
7	教員は、生徒の習熟度や様子を確認しなが ら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を 行っている	1年	36.8%	33.3%	24.1%	5.2%	0.6%	0.0%	5.7%	70.1%
		2年	39.3%	39.9%	17.8%	2.5%	0.6%	0.0%	3.1%	79.1%
		3年	38.3%	28.6%	25.0%	4.1%	4.1%	0.0%	8.2%	66.8%
		全学年	38.1%	33.6%	22.5%	3.9%	1.9%	0.0%	5.8%	71.7%
		保護者	20.8%	40.3%	31.2%	5.9%	1.8%	0.0%	7.7%	61.1%
8	教員は、英語検定や漢字検定など将来に必要 な資格の情報を提供し、取得できるように指 導・支援している	1年	40.8%	35.1%	21.8%	1.7%	0.6%	0.0%	2.3%	75.9%
		2年	49.4%	31.1%	17.7%	1.2%	0.6%	0.0%	1.8%	80.5%
		3年	44.4%	24.5%	22.4%	6.1%	2.6%	0.0%	8.7%	68.9%
		全学年	44.8%	29.9%	20.8%	3.2%	1.3%	0.0%	4.5%	74.7%
		保護者	24.0%	42.5%	28.1%	4.0%	1.4%	0.0%	5.4%	66.5%
9	教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る 様に授業を工夫し、補習や個別指導を行って いる	1年	44.8%	29.9%	22.4%	1.1%	1.7%	0.0%	2.9%	74.7%
		2年	44.5%	34.1%	17.7%	1.8%	1.8%	0.0%	3.7%	78.7%
		3年	42.9%	26.0%	25.5%	3.1%	2.6%	0.0%	5.6%	68.9%
		全学年	44.0%	29.8%	22.1%	2.0%	2.1%	0.0%	4.1%	73.8%
		保護者	22.2%	41.2%	30.3%	5.4%	0.9%	0.0%	6.3%	63.4%
10	教員は、進路について、総合の時間や個別面 談を通じて情報を提供し、丁寧に指導してい る	1年	39.7%	31.6%	24.7%	2.3%	1.7%	0.0%	4.0%	71.3%
		2年	44.5%	33.5%	18.3%	2.4%	1.2%	0.0%	3.7%	78.0%
		3年	43.4%	28.1%	21.9%	4.1%	2.6%	0.0%	6.6%	71.4%
		全学年	42.5%	30.9%	21.7%	3.0%	1.9%	0.0%	4.9%	73.4%
		保護者	34.8%	32.2%	24.9%	6.7%	1.4%	0.0%	8.1%	67.0%
11	緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課 外活動等、学校生活は楽しく充実している	1年	45.4%	31.6%	19.5%	2.3%	1.1%	0.0%	3.4%	77.0%
		2年	48.2%	29.9%	17.7%	3.0%	1.2%	0.0%	4.3%	78.0%
		3年	41.8%	26.5%	22.4%	4.1%	5.1%	0.0%	9.2%	68.4%
		全学年	44.9%	29.3%	20.0%	3.2%	2.6%	0.0%	5.8%	74.2%
		保護者	42.5%	34.9%	19.0%	2.2%	1.4%	0.0%	3.6%	77.4%
12	教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等 ができるように指導・支援している	1年	37.9%	30.5%	27.0%	2.9%	1.7%	0.0%	4.6%	68.4%
		2年	42.3%	32.5%	20.2%	2.5%	2.5%	0.0%	4.9%	74.8%
		3年	39.3%	22.4%	30.6%	4.6%	3.1%	0.0%	7.7%	61.7%
		全学年	39.8%	28.1%	26.3%	3.4%	2.4%	0.0%	5.8%	67.9%
		保護者	23.5%	30.8%	38.9%	4.1%	2.7%	0.0%	6.8%	54.3%
13	学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、 適切な指導を行っている	1年	39.9%	30.1%	20.8%	2.9%	6.4%	0.0%	9.2%	69.9%
		2年	47.6%	30.5%	14.6%	3.0%	4.3%	0.0%	7.3%	78.0%
		3年	35.7%	23.5%	27.6%	4.6%	8.7%	0.0%	13.3%	59.2%
		全学年	40.7%	27.8%	21.4%	3.5%	6.6%	0.0%	10.1%	68.5%
		保護者	28.1%	29.8%	28.1%	8.1%	5.9%	0.0%	14.0%	57.9%
14	学校は、いじめ防止のためにアンケート等で 実態を把握し、迅速に問題を把握するととも に、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して 丁寧な対応をしている	1年	38.5%	26.4%	30.5%	3.4%	1.1%	0.0%	4.6%	64.9%
		2年	39.6%	34.1%	20.1%	3.0%	3.0%	0.0%	6.1%	73.8%
		3年	35.2%	25.0%	30.1%	5.6%	4.1%	0.0%	9.7%	60.2%
		全学年	37.6%	28.3%	27.2%	4.1%	2.8%	0.0%	6.9%	65.9%
		保護者	18.1%	26.7%	44.8%	5.9%	4.5%	0.0%	10.4%	44.8%
15	学校は、人権について生徒の意識が高まる様 に講演会や日々の教育を通じて指導している	1年	35.6%	33.3%	28.2%	2.3%	0.6%	0.0%	2.9%	69.0%
		2年	43.3%	34.8%	18.9%	1.2%	1.8%	0.0%	3.0%	78.0%
		3年	38.8%	24.0%	29.6%	4.1%	3.6%	0.0%	7.7%	62.8%
		全学年	39.1%	30.4%	25.8%	2.6%	2.1%	0.0%	4.7%	69.5%
		保護者	19.0%	27.6%	48.0%	2.2%	3.2%	0.0%	5.4%	46.6%
16	学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間 やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に 支障がないよう配慮している	1年	32.8%	33.9%	30.5%	1.7%	1.1%	0.0%	2.9%	66.7%
		2年	44.5%	34.1%	16.5%	2.4%	2.4%	0.0%	4.9%	78.7%
		3年	40.3%	24.5%	28.1%	3.6%	3.6%	0.0%	7.1%	64.8%
		全学年	39.1%	30.6%	25.3%	2.6%	2.4%	0.0%	5.1%	69.7%
		保護者	23.5%	34.4%	37.1%	3.2%	1.8%	0.0%	5.0%	57.9%
17	学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との 連携を深めている（総合的な探究の時間や保 育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベン トへの参加等）	1年	34.5%	29.9%	31.6%	1.1%	2.9%	0.0%	4.0%	64.4%
		2年	41.5%	28.7%	23.8%	3.7%	2.4%	0.0%	6.1%	70.1%
		3年	39.3%	21.9%	30.1%	5.1%	3.6%	0.0%	8.7%	61.2%
		全学年	38.4%	26.6%	28.6%	3.4%	3.0%	0.0%	6.4%	65.0%
		保護者	24.4%	30.8%	38.9%	4.1%	1.8%	0.0%	5.9%	55.2%



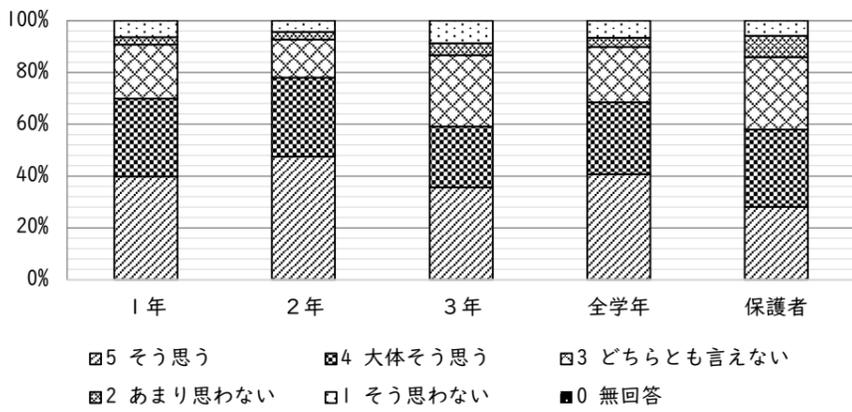
11. 緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している



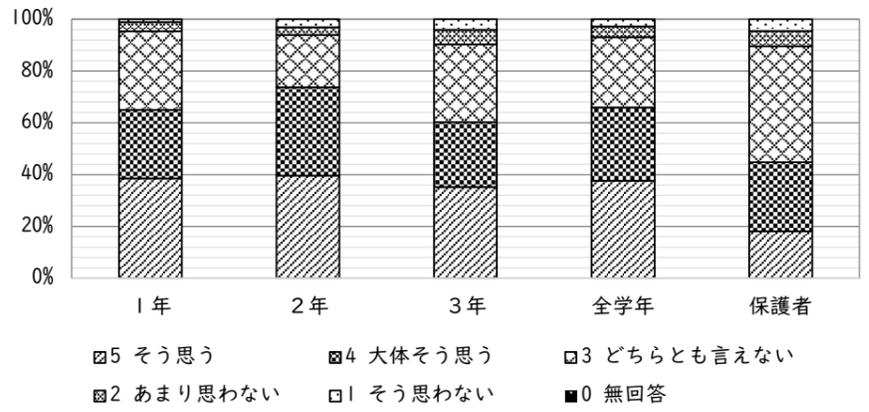
12. 教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している



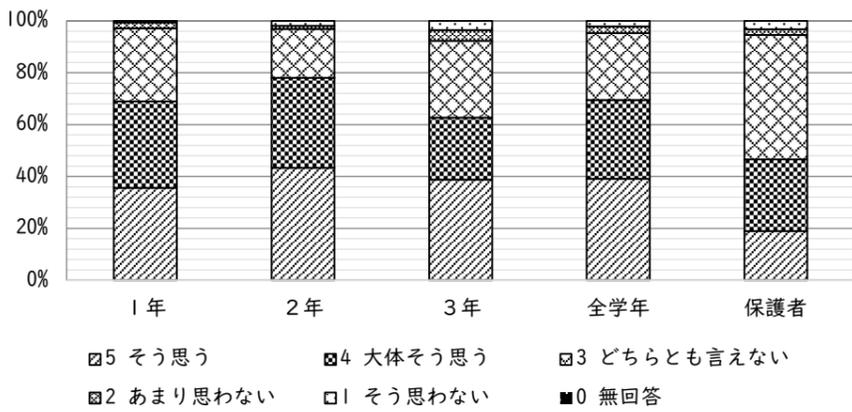
13. 学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている



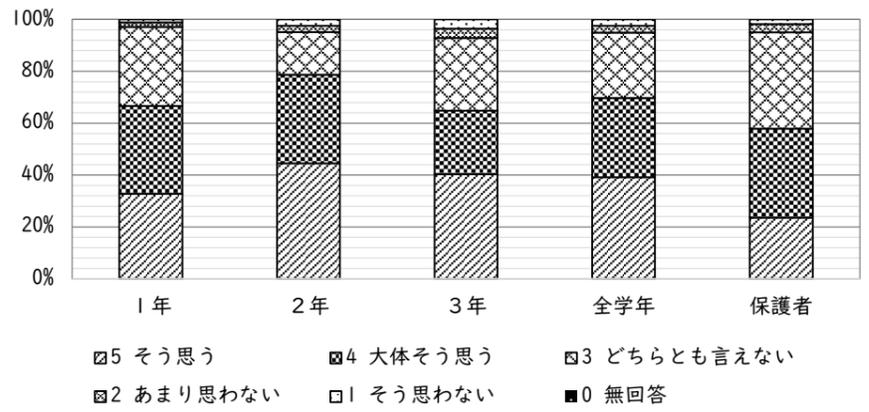
14. 学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている



15. 学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している



16. 学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している



17. 学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている (総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等)

